

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0473100204
法人名	特定非営利活動法人 ひまわり
事業所名	グループホーム 後楽庵
所在地 (電話番号)	宮城県遠田郡涌谷町字刈萱町14 (電 話) 0229-42-2620

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 8 月 18 日

【情報提供票より】(平成 20 年 7 月 30 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/○改築
建物構造	木造	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円、月額35,000円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	6 名	男性 0 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 89.3 歳	最低 77 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	涌谷町国保病院、木村歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

涌谷町の第一小学校近くの広大な敷地にある旧家の屋敷を、増改築して開設した定員6名のNPO法人が運営するホームである。敷地には栗の木など樹木が茂り、鳥や虫の声や草花が咲いていて、入居者は四季の移り変わりを感じる事ができる環境にある。特徴としては、夜勤二人体制や職員の移動が少ない事、就寝前入浴が挙げられる。骨折して寝たきり状態の方を受け入れて回復させ、医者から「介護は医療だけではできない」と感嘆させた話など、着実にケアの質を向上させているアットホームである。近くに法人の事務局や運営のデイサービスがあり、交流と支援が行われている。法人の運営ではあるが、ボランティア団体の香りが残るホームとの印象を受けた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念と共有、家族などへの報告、介護計画の作成と見直し、終末期ケア、災害対策など問題意識を持って改善の取り組みが行われている事は理解できた。ただし改善事項を知るための記録の整備などは、まだ充分とは言えない。努力の成果を文書として整理する取り組みの充実が求められる。今後の改善に期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価がケアの質を高め、サービス向上の重要な機会であるとの認識は共有されている。評価に止まらず日常的に改善点を見出し、反省点を忘れずに活動が行われている事は評価できる。今後も持続するよう期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、今回も開催されていなかった。同席した町の担当者も強い問題意識を持っており、早急に開催するよう求めたい。未開催の理由としては種々考えられるが、NPO法人事務局との役割分担の明確化や、あまり形や課題にとらわれず、取り組むことが必要と思う。年内の開催にむけて努力を求めたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>暮らしぶりや健康状態等について、必要に応じて個々に面会時や電話で報告しているが、書類として作成したものはない。中断されているホーム便りなどの発行を含めて、定期的に時間をかけて話し合うためにも、ツール類の整備が必要と思われる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のイベントや学校行事など、またボランティアの来所などで、地域との付き合いは深められている。最近では花火大会の際の敷地内での交流など、関係を深めたいとの努力がなされている。今後も地域住民との交流の下でのホーム運営にむけて、成果をあげるよう期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の運営理念がホームの玄関に掲げられている。ホームでは『どっこいしょ！のんびり、ゆっくりと！生き生きと！』など、家庭的な雰囲気という理念のもとにサービスを行っている。独自の理念もつくりあげていただきたい。	○	独自理念を月毎に作りたいとの目標について、その努力を評価したい。理念作りの視点には地域密着型サービスの意義を考え、「地域生活の継続」、「地域との関係性強化」などをうたったものも、同時に追求するよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一ヶ月に一回、スタッフ会議を開催して理念について話し合い、理念の実践にむけて努力している。さらに定期的に全員で話し合っていきたい。職員からの聴取では一応の理念の浸透は図られているが、更なる努力をしていただきたい。	○	言葉かけ、態度、記録化の励行など、日々のケアの提供場面において、理念が実践のなかでどう活かされているか、全員で検証し合い、更なるサービス向上に努めるよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流の輪は、着実に大きくなっている。最近の花火大会時の地域住民との交流など努力が行われている。自然に恵まれているので、栗拾いなど多くの交流の機会は可能である。認知症ケアの地域拠点として、更なる飛躍が期待できる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価が、サービスの質の向上に果たす重要な意義を理解している。今後は日常的により良いサービス確保のために、業務改善の取り組みを進めるよう望みたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、開催されていない。	○	あまり大きく構えすぎないで、身近な課題で懇親会的な発想で、年内にスタートしていただきたい。その際、NPO法人事務局との連携も考慮にいられて、二人三脚の取り組みも必要と思うので、検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ショートステイの指定以降、緊急保護の方を受け入れており、町との連携は深まっている。町の地域包括支援センターの勉強会にも参加しており、困難事例の解決にも共に取り組み連携しあっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態などについて、個々の面会時や電話で報告が行われている。今後は定期的に家族とゆっくり話し合う場を作りたいとしている。	○	口頭での重要性は理解できるが、お便りの活用や中断されているホーム便りの発行などもツールとして重要である。認知症ケアの地域拠点として広く町内にピアールできるものを、今後検討されるよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の窓口など、外部者に表せる機会は設けている。家族会が組織されて活動が行われている。今後も家族等意見の反映を通して、改善点を見つけ出しサービスの向上に繋げていきたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は開設以来ほとんどない。新スタッフを配置する場合は、通常二名のところ三人体制を取って研修期間を設けて対処している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士や介護支援専門員など、福祉資格の取得にむけて支援している。ホーム内の研修ではパートを含めて全スタッフが参加している、一層の充実をはかっていたきたい。	○	全職員が共有できるように、研修内容を報告できる機会を作っているとの点は、記録されたものがなく確認できない。今後にむけて改善を行い全員に水平展開できるよう配慮し、スキルの均等化に努力するよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国的なネットワーク組織への加入も、町内にある他ホームとはお互いの利点を理解しあっており、サービスの向上に役立てるよう、発表会や事例検討会を開催し交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にホームに来ていただき、体験の場を設けている。同一法人のデイサービス利用者からの入居が多いので、常日頃の交流で馴染みの関係が容易にできている。家庭訪問は必ず行い調査している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者全員を人生の先輩として尊重してケアに当たっている。書道、踊り、着付け、絵、畑作りなど、共に過ごし活動し、学びあい、支え合う関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を日々の会話の中から引き出し把握している。スタッフに遠慮し意向や希望が伝達されなくならぬよう、絶えず信頼関係を日々強いものにする努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議で話し合われた内容を基に、介護計画を作成している。計画をスタッフ全員に浸透させること、モニタリングの集約結果を再目標に繋げることなど、今後重点的に取り組んでいただきたい。	○	本人、家族、必要な関係者との話し合いの結果としての介護計画でありたい。いかにそれぞれの意見が集約されてチームとしての介護計画が作成されたかが問われる。課題の掘り起こしに向けて、更なる取り組みの強化を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた時点で、家族への連絡を速やかに行い、スタッフ会議を招集して検討している。	○	会議は周期にこだわらず変化があった際は開催するよう常態化したい。計画の見直しは最低3ヶ月に一回は行うことになっており、計画書上に明記が必要と思う。また、見直し内容も家族の同意が必要であり、改善が図られるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の通院、外出、外泊などは、家族の協力もいただき、柔軟に行っている。空室がある場合はショートステイも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医、医療機関に受診できるように支援している。受診の際の同行や医師に対する入居者の健康状態などの書面による伝達も行っている。今後は往診などの協力も得ていきたいとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全員の話し合いが行われており、問題意識も共有され昨年より取り組みが進んでいる。しかし、方針や確認書など文書化されたものは少ない。更なる取り組みの充実を期待したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規程や重要事項説明書にプライバシー確保の取り決めがあり、また、法人全体の方針もホーム内に掲出されている。日常的には馴染みの関係の進化がプライバシーを損ね、馴れ合いにならぬよう注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間を区切っての一日の暮らしの流れなどの掲示を行っていない。取り決めをしないで自由な感じで過ごせるよう配慮し、拘束感を排除している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立などは材料を示して、何にするか一緒に考えている。畑で収穫したものを職員も共に食べて楽しんでいる。漬物づくりなどできることは手伝ってもらっている。一日のメニュー表には「調味料」の欄がありユニークである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は就寝前が慣例化している。毎日19時～20時半の間で、本人の体調や気分に応じて休むなど柔軟な対応はなされている。入居者の日中帯などの希望把握はこれからの課題と思う。毎日の業務日誌には、入浴のほかに「洗髪、足浴などの洗浄」欄があり、個々の把握は行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	スタッフが声掛けをして、掃除、草取り、洗濯物たたみ、書道、折り紙、歌、ドライブ、買物など、入居者の趣味や力量に合わせて、一緒に楽しんでいる。全体として習慣、希望に沿って支援が持続されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど、希望に沿えるよう支援している。理美容、薬局、スーパー、時計の修理など、毎日誰かは出かけている。外出に車椅子が必要な方3名も随時広い庭や畑に出かけるよう支援している。今後は希望を引き出すのが困難な方にも、体調を考慮して戸外に出かけられるよう努力したい。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。一人で外にでる可能性のある方は、常に所在を確認している。畑までの歩道を作るなど庭作りを計画したが、財政上できなかった。今後これに代わる対策を考えていきたい。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練を行い、夜間想定訓練も実施した。消防の査察もパスした。水、懐中電灯なども備えている。緊急連絡一覧は電話の傍にあり、職員には周知が徹底されている。今後はよりマニュアル類の整備を図り、災害対策を強めていきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々個別にチェック表に記入して観察している。月一回の体重測定も行っている。栄養士の助言は年一回程度に止まっているので、今後回数を増やしていただきたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作成したもので、季節の飾りつけが行われている。季節の花を飾り鳥の声なども聞こえ、光や音、匂いなど不快に感じる点は無かった。屋敷と増改築のスペースが良くマッチングしており、あたかも三世代の家族が同居しているように感じる空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	旧屋敷部分が和室三室、増改築部分が洋室三室の配置で、空間を上手に利用して廊下にソファを置いたり、入居者の居室に二人掛けのソファを置き、入居者同士が過ごす時間が大切にされている。居室の内部も孫の写真など好みのものが備わり、清潔で乱雑という印象はなかった。		